

令和2年度 学校評価 幼稚園結果

令和3年3月末 学校教育課まとめ

No.	幼稚園名	今年度重点目標	学校自己評価結果					学校関係者評価			表示以外の評価「分野」		
			項目数	No.	分野	重点目標	評価項目・取組状況	達成状況	改善方策	評価項目		実施方法	総合
1	宮川幼稚園	1 感染症対策を行いながら、例年より質を落とさない保育の推進 2 幼児の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進 3 津波浸水危険区域に立地する幼稚園の防災教育の研究	2	1	教育課程	1.2	<p>○運動遊びでは、幼稚園再開後は友達同士が接触しない、物を共有しないという条件で遊びを工夫した。「ソーシャルディスタンス」を逆に遊びに取り入れた。</p> <p>○実施できなかったプール遊びにかわる遊びを例年より充実させた。(とろんこ、みずでっぼう、舟つくり、泡遊びなど)他に「みやようのうえん」「クスノキプロジェクト」など新しい取り組みを行った。</p> <p>○感染状況が落ち着いている期間は、手洗いや道具の共有をしながら、例年と変わらない活動にもっていった。</p> <p>○支援が必要な幼児や、クラスの特徴を踏まえて、誰もが平等に参加でき、わかりやすいルールを工夫した。</p>	B	<p>○最初はこわごわ遊びを進めたが、基本的な感染症対策をすることで、ほぼ例年と変わらない遊びを進めていく。</p> <p>○家庭で体を動かす機会が通常でも減っているのに、コロナ禍でもっと減ったというアンケート結果もあった。幼稚園での運動遊びは非常に重要である。</p> <p>○幼児の特性を鑑み、クラス全体が楽しめるルールを工夫することが、教職員の中で定着してきた。今後もこの理念に基づき、ユニバーサル保育を研究したい。</p>	<p>○コロナ禍の中で、様々なことが中止になる中、「できることはとにかく」「どうやってできるか」を考えて取り組んだことを評価する。</p> <p>○これまでの「当たり前」をみならず、機会にもなり、様々な工夫が見られた。</p> <p>○教育評価の結果は保護者との信頼関係の結果である。参観等ができてく、園の生活が見えにくい今だからこそ、「発信」がとても大切である。</p>	<p>○評議員会及び学校関係者評価委員会を、書面で行った。</p> <p>○保護者アンケートを実施。集約し保護者へ結果を周知している。</p> <p>○園だよりや、学校評価アンケートの資料など評価を依頼したが、「評議員」に評価を依頼するならば、評議員会は開催すべきで、資料提示されたも評価が非常に難しいとの意見もあった。</p>	・適切に園運営が行われている。	安全管理
2	岩園幼稚園	1 幼児が主体的に遊ぶ環境について考える 2 3年保育実施に向け、カリキュラムを見直す 3 地域に関わられた幼稚園づくり	4	1	教育課程	1	<p>・「トキメキ」「ヒラメキ」を視点を幼児の心が動いている姿を写真に撮り、可視化を図ってきた。その写真をもとに定期的に話し合い、環境を再構成してきた。</p> <p>・物的環境を幼児が安全に使いやすいよう整えたことで、いろいろな「もの」を使って遊びに生かす姿がよく見られるようになった。</p>	A	<p>・「トキメキ」「ヒラメキ」の視点が幼児の内面を探ることになったことが幼児理解、環境構成の充実につながった。</p> <p>・幼児の課題をより明確にしていけるため、環境図を使った振り返りをしていく。</p>	<p>・幼児が様々な遊具や用具を使って、創造的に遊んでいる姿を見て、遊びやすい環境づくりがなされ、意欲的に遊んでいる。</p> <p>・幼児期にいろいろな経験を通して心と体をつくっていくための保育実践を引き続き大切に、外部にもつと発信をしていく。</p>	<p>・保護者アンケートの結果を公開し、来年度の園経営に生かそうとしている。</p> <p>・幼児期に大切な教育について目標を明確にもち、取り組んでいる。</p> <p>・園だよりやブログ等で幼児の姿や園の考えについてわかりやすく発信している。</p>	重点目標に対しての取組は適切にされ、次年度に向けての改善方策も考えられている。	園運営
3	小槌幼稚園	1 幼児期にふさわしい生活の展開 2 健康で安全な幼稚園生活の創造 3 子育て支援の充実	2	1	教育課程	1	<p>・園の教育目標である「心も体もたくましい幼児の育成」に向けて、身近な生き物や草花とのかかわりを通して感動体験ができる保育を推進した。</p> <p>・体を十分に使って遊ぶことが、幼児期の体の基礎づくりにつながることを願い、各学期を通して、運動遊びに取り組んだ。年少児、年長児合同での触れ合い遊び、体操、巧技台、竹馬、縄遊び、鬼ごっこなど、一年を通して様々な運動遊びを実施した。</p> <p>・四季を通して、畑での野菜の栽培活動を充実させ、野菜の栽培や収穫を通して、幼児の食への関心が高まるよう努めた。</p>	B	<p>・自然や生き物とのかかわりが、旬を逃さず継続的に行われるよう、環境の構成を工夫し、計画的に進めていく。</p> <p>・体を動かす遊びが、幼児の動作の基礎作りや、運動量の増加が集中力や調整力につながることを教師が意識し、季節ごとに様々な運動遊びを工夫していく。</p> <p>・食への興味が、自分の体づくりへの興味関心へとつながるように進める。</p>	<p>・重点目標に対して、取り組みは適切になされ、次年度に対しても課題が明確に示されている。身近な生き物や草花とのかかわりを遊びの素材とした保育をもっとPRしていくことが大切ではないか。</p> <p>・年少児と年長児との異年齢でのかかわりは効果を上げており、今後も継続が望まれる。</p> <p>・幼児期にこそ、十分に体を動かすことの楽しさを体感させていくことは重要である。</p>	<p>・教育評価に関する保護者アンケートを実施。集約し、保護者に周知した。</p> <p>・重点目標に対しての取り組みは適切になされている。</p>	・保護者の教育評価は具体的に丁寧を実施されており、園における教育活動の取り組みは良好である。	園運営

5	西山幼稚園	<p>1 響き合う仲間を育むための教育の推進 2 幼児の育ちと学びをつなげる幼小接続の研究 3 子育て支援活動の充実</p>	2	1 教育課程	<p>1</p> <p>○響きあう仲間を育むための教育の推進 ・友達と関わりながら、考え合える保育を工夫した。また異年齢のペアを決め、遊んだり教えたりする機会をもち、互いに思い合う姿につながった。 ・2学期以降、開催方法の工夫により殆どの行事を行うことができ、幼児は行事に向けて友達と気持ちや力を合わせ、達成感や満足感を味わうことができた。 ○幼小の接続 ・1年生の育ちや幼稚園の実践について、小学校の先生と意見を交換することができ、相互理解につながった。</p>	B	<p>・今後も一人一人の内面理解を深め、友達と響き合いながら遊びを創り出す環境について、工夫していく。 ・異年齢のペア活動を引き続き行い、よりよい育ちにつなげていく。 ・今年度の経験を元に、幼児の育ちにつながる行事の持ち方や内容を考える。 ・幼小の学びの連続性について次年度も教員同士の研究を行う。幼児が小学校へ行くことが可能になれば、連携していきたい。</p>	<p>・コロナ禍の中、子ども達のことを思い最善をつくしている。保護者と先生との信頼関係がしっかりと築かれていくことで、子ども達が大きく成長している。自ら考え、人とのコミュニケーションをとることが大切だと思いが、その核となるものをしっかり幼稚園は育てている。 ・西山幼稚園出身の子ども達は、知らない友達とどんな世界を広げていくか楽しみにしている。 ・小中学校との連携は、今後感染状況を観極め、何ができるか模索していきたい。</p>	<p>園の教育目標、重点目標から評価項目を精選し、教職員対象の自己評価と保護者対象の教育目標が適切に実施されている。</p>	<p>園における教育活動の取り組みや評価は良好である。今後も家庭や地域との連携を大切に、教育内容の充実や子育て支援の推進を期待する。</p>	子育て支援
6	伊勢幼稚園	<p>1 保育の内容の充実 2 地域に開かれた幼稚園づくりの推進 3 子育て支援活動の推進</p>	3	1 保育内容	<p>1</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の感染防止のため基本的な生活習慣を身に付けることに努めた。教育目標「心も体も元気な子」を推進し、心と体をたくましく育てるため現状でできる活動に取り組んだ。栽培からの食育、チャレンジ等を通して主体的にかかわる力を育んだ。小動物の飼育、生き物との関わり、環境学習を通して命や自然の大切さを伝えてきた。</p>	B	<p>・毎朝の検温、手指の消毒やマスクの着用等、保護者の協力もあり、感染防止の生活習慣を身に付け、体調不良での欠席がほとんどなかった。それぞれの年齢や幼児に応じたチャレンジを行い、成長につながった。</p>	<p>園に入るための消毒やマスクの着用等があり、安心して園での生活ができた。 ・コロナ対策に向けての生活習慣の取り組みが達成されていたと思う。 ・制限の中、工夫されている。</p>	<p>・アンケートにする事により、答えやすく、自由記述もあり、意見を伝えることもできた。 ・きちんと実施できていると思う。 ・コロナ禍でできないことは承知しているが、評議員会として、顔を合わせての会が1度しか開催されなかったのは残念だった。</p>	<p>コロナの影響でできることが少なかったと思うが、その中でも様々な体験・取り組みがあった。休園になった時期もあったが、子どもたちは普段通りに成長していると思う。保護者の心がけや教職員の徹底した対策のおかげだと思える。最後の1年を丁寧に過ごしている様子が伺えた。</p>	園運営・情報発信・子育て支援
7	潮見幼稚園	<p>1 健やかな心と体の育成 2 環境を生かした園経営 3 開かれた幼稚園づくり(子育て支援)</p>	4	1 教育課程	<p>1</p> <p>・心身共に健康でたくましい幼児を育成することを旨とし、チャレンジ遊びや運動遊びを多く取り入れてきた。また、自然や生き物とのかかわりを保育の中心に据えた表現活動を展開してきた。 ・日々の保育の様子をブログと園だよりで発信してきた。参観日ができないときは、動画やビデオで知らせた。</p>	B	<p>・講師を招聘し、継続した研究体制を作る。 ・来年度も期ごとの教育課程の見直しと繰り返しを行う。 ・保育のねらいや教師の願いを保護者や地域の人々に今後も詳しく発信していく。</p>	<p>・コロナ禍で例年通りできないこともあったが、子どもたちはのびのび自信をもって育っていて、先生たちの援助の細やかさがうかがえる。 ・参観などができない分、ブログや動画などで発信してきたことは大事である。これからも是非続けてもらいたい。</p>	<p>・学校評議員会を3回開催し(1回目は書面)日々の保育内容や取り組みをブログや園だよりで発信している。 ・保護者アンケートの結果を集約し、保護者に周知している。職員アンケートの結果は評議員に伝えていく。 ・今年度の研究成果や課題を明らかにし、次年度に生かそうとしている。</p>	<p>・芦屋市の公立幼稚園のよさを発揮しながら、潮見幼稚園独自の特色も生かして取り組みがなされている。 ・コロナ禍での工夫もされている。潮見幼稚園の園児が少しでも増え、さらに発展していくことを期待する。</p>	園経営